

**NIFCO****2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）**

2020年2月3日

上場会社名 株式会社 ニフコ 上場取引所 東
 コード番号 7988 URL <https://www.nifco.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山本 利行
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 最高財務責任者 (氏名) 本多 純二 TEL 03-5476-4853
 四半期報告書提出予定日 2020年2月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	214,131	1.1	22,507	0.9	22,316	△0.6	15,116	△11.5
2019年3月期第3四半期	211,897	6.6	22,297	△3.5	22,459	△4.3	17,077	5.5

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 9,872百万円 (△31.7%) 2019年3月期第3四半期 14,450百万円 (△23.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	146.64	141.34
2019年3月期第3四半期	164.19	158.31

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	291,659	163,157	55.3	1,565.85
2019年3月期	284,842	160,690	55.7	1,538.96

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 161,279百万円 2019年3月期 158,787百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	31.00	—	31.00	62.00
2020年3月期	—	31.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	31.00	62.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	290,000	0.4	29,200	1.3	28,800	0.1	19,700	△5.1	191.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社（社名）－、除外 1社（社名）Nifco KTS GmbH
当社100%出資の子会社である Nifco KTS GmbH は、2019年7月31日付けで同じく当社100%出資の子会社である Nifco KTW GmbH（現 Nifco Germany GmbH）を存続会社とする吸収合併により消滅したため、特定子会社から除外されております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有
（注）詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	107,508,954株	2019年3月期	107,508,954株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	4,510,859株	2019年3月期	4,330,549株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	103,088,076株	2019年3月期3Q	104,009,308株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、（添付資料）3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費については、消費税率引き上げによる落ち込みは一時的で穏やかな増加基調が続いたものの、製造業を中心に企業の景況感は悪化しており、依然として先行きに不透明感が残る状況で推移いたしました。海外に目を転じますと、中国経済は、景気対策により地方経済が回復しつつあるものの、内需の回復が遅れているほか、米国による関税引き上げにより外需も低迷しており、全体的に減速傾向にあります。欧州経済については、ユーロ圏では良好な雇用・所得環境により個人消費に底堅さが見られたものの、外需鈍化や環境規制厳格化を背景に製造業の低迷が長期化しており、全体的に減速基調にあります。英国においても、Brexitに対する先行き不透明感が残り、低成長が続いています。また、米国においては、外需減速や米中貿易摩擦をめぐる不確実性の高まりを受け、製造業の低迷が続いています。このように世界経済は貿易摩擦や地政学的な情勢をめぐる不透明感から、全体的に減速傾向にあります。

当社グループの主要顧客であります自動車メーカーにつきましては、日本市場では、大型台風の影響で秋以降の受注が落ち込み、対前年同期比で生産販売台数ともに前年を下回りました。海外におきましても、中国市場、米国市場及び欧州市場では、生産台数、販売台数ともに前年割れの状況となっています。

このような状況の中、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比1.1%増の2,141億3千1百万円となりました。

利益面では、ベッド及び家具事業子会社の業績が堅調であること、及び全社的な管理可能経費削減の取り組みにより、営業利益は前年同期比0.9%増の225億7百万円となりました。経常利益は前年同期比0.6%減の223億1千6百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、固定資産売却益の減少等により、前年同期比11.5%減の151億1千6百万円となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

各セグメントの売上高は、外部顧客に対するものであります。

①合成樹脂成形品事業

合成樹脂成形品事業は、国内においては自動車生産台数が減少したものの、新型車への当社製品1台あたり搭載金額が伸びたことにより売上利益の拡大に貢献しました。一方、海外においては、中国を始めとするアジア及び欧州における前年度割れがあったものの、北米では前年を上回ったため、全体としては前年同期比で若干の増収となりました。利益面では、親会社における固定費の抑制、及び業績不振であった海外子会社の業績回復等があったものの、中国を始めとするアジア及び欧州における売上高が減少した子会社において利益の減少があったことにより、前年同期比で若干の減益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の合成樹脂成形品事業の売上高は前年同期比0.6%増の1,944億5千7百万円となり、セグメント利益につきましては、前年同期比1.4%減の233億7千3百万円となりました。

②ベッド及び家具事業

ベッド及び家具事業は、国内においては消費増税を前にした駆け込み需要並びに旺盛なホテル需要が牽引し、アジアにおいてはデモの影響により香港が苦戦したものの、中国を中心にホテル及び小売向けが伸びたことにより、増収増益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間のベッドおよび家具事業売上高は前期比5.3%増の195億7千1百万円となりました。セグメント利益につきましては、前期比7.1%増の30億4千3百万円となりました。

今後に関しては、国内では卸・ホテル等、既往取引先様との協力関係の強化を行うとともに、「シモンズギャラリー東京」を活用し、より良い睡眠を提供する企業として発信して参ります。また、アジアでは中国小売り網の拡充と蘇州工場での増産に注力し、アジア全域でのブランドの高揚を図り、更なる増収増益を目指します。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ68億1千7百万円増加して、2,916億5千9百万円となりました。増加要因としては、社債による調達を行ったこと等により、現金及び預金が42億7千8百万円、建物及び構築物が36億7千8百万円、並びに米国以外の海外子会社におけるIFRS第16号「リース」適用開始の影響等により有形固定資産のその他が44億5千6百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ43億5千万円増加して、1,285億1百万円となりました。増加要因としては、新規の資金調達等により社債が143億7千万円、米国以外の海外子会社におけるIFRS16号「リース」適用開始の影響等により流動負債のその他が26億8千万円、固定負債のその他が21億1百万円それぞれ増加しましたが、一方で1年内償還予定の社債が106億6千6百万円、短期借入金が15億3千4百万円、未払金が17億7千9百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ24億6千7百万円増加して、1,631億5千7百万円となりました。主として利益剰余金が87億9百万円増加したものの、円高により為替換算調整勘定が60億2千7百万円減少したことなどによるものであります。この結果、自己資本比率は55.3%、1株当たり純資産は1,565円85銭となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

(通期)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) 2019年5月10日発表	292,000	30,000	29,500	20,200	195 80
今回修正予想 (B)	290,000	29,200	28,800	19,700	191 10
増減額 (B-A)	△2,000	△800	△700	△500	—
増減率 (%)	△0.7	△2.7	△2.4	△2.5	—
(ご参考) 前期通期実績 (2019年3月期)	288,902	28,834	28,778	20,753	199 90

通期連結業績予想の修正理由

売上高につきましては、主力事業である自動車向け合成樹脂成形品事業の販売が、国内では1台あたりの搭載金額の伸びが見込まれ、海外ではアジア、欧州で伸び悩み、北米では好調と全体として概ね堅調に推移しましたが、邦貨換算上での為替相場が当初見込みより円高に推移したため予想を修正いたします。利益面につきましても、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益とも同様に為替換算上、円高の影響を受けたこと等により通期の業績予想を修正いたします。

なお、連結業績予想に用いた主な為替換算レートは、109円/米ドル、122円/ユーロです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	76,294	80,573
受取手形及び売掛金	48,401	47,128
電子記録債権	7,446	6,470
有価証券	595	462
商品及び製品	20,874	20,680
仕掛品	2,111	1,949
原材料及び貯蔵品	6,189	6,311
その他	8,718	7,843
貸倒引当金	△203	△232
流動資産合計	170,429	171,185
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	40,712	44,390
機械装置及び運搬具(純額)	22,982	22,467
工具、器具及び備品(純額)	5,202	5,136
金型(純額)	6,866	5,773
土地	16,843	17,519
リース資産(純額)	995	57
建設仮勘定	7,401	8,503
その他	—	4,456
有形固定資産合計	101,005	108,304
無形固定資産		
のれん	1,724	1,346
その他	1,667	1,437
無形固定資産合計	3,391	2,783
投資その他の資産		
投資有価証券	4,996	5,138
繰延税金資産	1,894	1,635
その他	3,311	3,013
貸倒引当金	△186	△403
投資その他の資産合計	10,015	9,385
固定資産合計	114,412	120,473
資産合計	284,842	291,659

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,522	18,569
1年内償還予定の社債	11,479	813
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	—	10,503
短期借入金	10,632	9,097
1年内返済予定の長期借入金	1,703	809
未払金	6,024	4,244
未払法人税等	3,775	2,372
賞与引当金	1,758	917
その他	11,967	14,648
流動負債合計	66,864	61,977
固定負債		
社債	20,629	35,000
転換社債型新株予約権付社債	10,512	—
長期借入金	15,836	19,168
繰延税金負債	4,449	4,305
退職給付に係る負債	3,743	3,832
その他	2,116	4,218
固定負債合計	57,286	66,524
負債合計	124,151	128,501
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,290	7,290
資本剰余金	13,794	13,794
利益剰余金	151,864	160,573
自己株式	△10,677	△11,165
株主資本合計	162,271	170,492
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	547	599
繰延ヘッジ損益	△9	△8
土地再評価差額金	6	6
為替換算調整勘定	△2,427	△8,455
退職給付に係る調整累計額	△1,600	△1,355
その他の包括利益累計額合計	△3,483	△9,212
非支配株主持分	1,903	1,878
純資産合計	160,690	163,157
負債純資産合計	284,842	291,659

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	211,897	214,131
売上原価	153,314	155,372
売上総利益	58,582	58,758
販売費及び一般管理費	36,284	36,250
営業利益	22,297	22,507
営業外収益		
受取利息	176	214
投資有価証券評価益	—	162
補助金収入	116	328
その他	987	676
営業外収益合計	1,280	1,381
営業外費用		
支払利息	453	460
社債発行費	115	79
為替差損	272	348
貸倒引当金繰入額	—	329
その他	276	353
営業外費用合計	1,118	1,572
経常利益	22,459	22,316
特別利益		
固定資産売却益	1,817	51
投資有価証券売却益	2	99
子会社清算益	4	—
受取解約金	438	—
特別利益合計	2,263	150
特別損失		
固定資産処分損	75	50
固定資産売却損	—	246
特別損失合計	75	296
税金等調整前四半期純利益	24,647	22,170
法人税等	6,930	6,552
四半期純利益	17,717	15,618
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,077	15,116
非支配株主に帰属する四半期純利益	639	501
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△322	51
繰延ヘッジ損益	△9	0
為替換算調整勘定	△3,164	△6,044
退職給付に係る調整額	230	245
その他の包括利益合計	△3,266	△5,745
四半期包括利益	14,450	9,872
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,884	9,387
非支配株主に係る四半期包括利益	566	485

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

IFRS第16号「リース」の適用

当連結会計年度より、日本基準を採用する当社及び国内子会社、並びに米国基準を採用する北米子会社を除き、IFRS第16号「リース」を適用しています。

当会計基準の適用にあたっては、経過措置として認められている、当該基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。過去にIAS第17号を適用してオペレーティング・リースに分類した借手としてのリースについては、適用開始日に、使用権資産及びリース負債を認識しております。また、有形固定資産のリース資産(純額)に含めていた一部の資産についても使用権資産への振替を行っております。

当該基準を適用した結果、当第3四半期連結会計期間末において、リース資産(純額)が938百万円減少し、有形固定資産のその他が4,456百万円増加しています。また、流動負債のその他が1,377百万円、固定負債のその他が2,493百万円それぞれ増加しています。

なお、当該基準の適用による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

〔報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報〕

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額 (注3)
	合成樹脂 成形品事業	ベッド及び 家具事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	193,215	18,584	211,799	97	211,897	-	211,897
セグメント間の内部売上高 又は振替高	48	-	48	227	276	△276	-
計	193,263	18,584	211,848	325	212,173	△276	211,897
セグメント利益又は損失(△)	23,703	2,841	26,544	123	26,667	△4,370	22,297

(注) 1. その他には、売掛債権の買取業務及び各種サービス業務の受託事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△4,370百万円は、全社費用△4,400百万円及びセグメント間取引消去29百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

〔報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報〕

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額 (注3)
	合成樹脂 成形品事業	ベッド及び 家具事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	194,457	19,571	214,029	101	214,131	-	214,131
セグメント間の内部売上高 又は振替高	60	-	60	205	266	△266	-
計	194,518	19,571	214,089	307	214,397	△266	214,131
セグメント利益又は損失(△)	23,373	3,043	26,417	76	26,493	△3,986	22,507

(注) 1. その他には、売掛債権の買取業務及び各種サービス業務の受託事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△3,986百万円は、全社費用△3,998百万円及びセグメント間取引消去12百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。